

令和2年度の取組について

令和3年2月3日	資料1
第3回 東京都保険者協議会データ分析部会	

令和3年11月25日	参考資料6
第2回 東京都保険者協議会データ分析部会	

前回(第2回 本部会)の協議結果(1)

「令和2年度 健康スコアリングレポート」の活用方法等について

「令和2年度 健康スコアリングレポート」の共有方法等についてご協議いただき、委員の自保険者の活用方法等(下記項目等)について本部会で情報共有することとなった。

【情報共有の主な項目】

- ・年齢構成
- ・性別
- ・事業、業務(公営国保の場合は地域の特徴)
- ・受診率や医療費の状況等から主に取り組んでいる保健事業(又は今後取り組みたい事業)等
- ・健康スコアリングレポートの活用状況(事業主や予防健康づくり部門との連携)

本日の情報共有(1)

令和3年1月6日付のメールにて委員の方に調査し内容を取りまとめた「委員事前調査結果」(P.2~7参照)をもとに、「令和2年度 健康スコアリングレポート」の活用方法等について、各自ご発表いただき、情報共有をしていただきたい。

委員事前調査結果

ご所属・氏名	内容
全国健康保険協会 東京支部 上條委員 一柳委員	<p>【加入者の居住地】※1 都内に居住している東京支部加入者は50%前後で、残り半分程度は都外居住者である。</p> <p>【年齢構成】※1 東京支部の加入者は、全支部平均に比べ20歳～49歳の加入者に割合が多く、50歳以上の高齢者の割合が少ない。</p> <p>【性別】※1 東京支部の加入者は、全支部平均に比べ女性が多い。（男性47.9%、女性52.1%）（令和2年3月現在）</p> <p>【事業、業務】※2 中小規模の事業所が多く、全体の約8割が従業員9人以下。</p> <p>【受診率や医療費の状況等から主に取り組んでいる保健事業等】 （受診率及び医療費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●協会けんぽ全支部平均に比べ、東京支部の健診受診率は低い。 ●協会けんぽ全支部平均に比べ、東京支部の一人当たり医療費は低い。 <p>（取り組み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●40歳に到達した被保険者へのDMによる受診勧奨 ●血圧、血糖値が基準値以上の方に対する受診勧奨 <p>【健康スコアリングレポートの活用状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●協会けんぽの支部別スコアリングレポートを作成し、支部の課題を把握。 <p>※1…スコアリングレポート以外から抽出した情報 ※2…全国健康保険協会の一般的な情報</p>

ご所属・氏名	内容
電設工業 健康保険組合 笹川部会長	<p>【年齢構成】 被保険者の年齢構成は、40歳から55歳までの比率が高く、平均年齢は43.9歳である。</p> <p>【性別／事業、業務】 男女の比率は、男性80.5%、女性19.5%である。業種が建設業が主体となっていることから、男性の比率が高く、喫煙率も組合平均、業態平均ともに高くなっている。</p> <p>【受診率や医療費の状況等から主に取り組んでいる保健事業等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特定健診の受診率は、被保険者では2017年に95.2%であったが、2018年には、92.8%と下がっている。被扶養者では、2017年は33.0%であったが、2018年には、35.9%と上がっており、加入者全体でみると、2017年は74.3%であったものが、2018年には、75.08%とわずかであるが受診率が上がっている。しかしながら、総合組合平均を上回ってはいるものの、組合全体平均を下回っている。 ● 特定保健指導の実施率は、伸び悩んでおり加入者全体でみると、総合組合平均、健保組合平均ともに下回っている。当日の初回面接の実施やICTを活用した面接の実施と取り組んでいるところである。 ● 健保の業種が建設業ということで現場仕事が多く不規則なことから、生活習慣病のリスクが高く、食事習慣や運動習慣の改善への取組が重要となっている。 ● 健康企業宣言事業への働きかけとして、禁煙セミナーや歯科検診等を案内し、希望があれば事業所に出向くなどセミナーを開催している。 <p>【健康スコアリングレポートの活用状況】 事業所が多く全国にあり、また事業規模も多様なことから、まず、健康意識の高い事業所（事業主）への積極的なアプローチを進め徐々に全事業所に展開することとしている。</p>
デパート 健康保険組合 加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 被保険者の平均年齢は約45歳で、女性が約6割を占める。一人当たり医療費は全組合平均より低い。 ● 事業所は百貨店やスーパーマーケット等のためシフト制で働く者が多く、食事が不規則な者や睡眠が不十分な者が多い。喫煙者も全組合平均より高く、特に女性の喫煙率が高い。 ● 事業主からの定期健診結果の提供及び被扶養者への受診勧奨に取り組んでいるが、特定健診実施率は全組合平均及び業態平均よりも低い。 ● 血圧と血糖が高いため、事業主と協力し、重症化予防のための受診勧奨を行っている。 ● 歯周病と生活習慣病は相互関係にあることから、生活習慣病の予防及び改善のため、歯科健診事業に取り組みたい。 ● 健康スコアリングレポートと組合独自の事業所単位の分析レポートにより、保健事業担当者及び組合保健師から事業主に対し事業所の健康課題を説明し、特定保健指導及び重症化予防等の保健事業に積極的に協力していただくよう要請した。

ご所属・氏名	内容
日本通運 健康保険組合 渡邊委員	<p>【年齢構成】 40歳以上の加入者が全加入者の52.3%</p> <p>【性別】 40歳以上の加入者の性別は男63.3%、女36.7%</p> <p>【事業、業務】 業態区分は運輸業</p> <p>【受診率や医療費の状況等から主に取り組んでいる保健事業等】 <ul style="list-style-type: none"> ● 特定健康診査、特定保健指導の実施率は比較的良好とされている。 ● 生活習慣病リスクについては要改善とされている。「肥満対策」「喫煙対策」が重要課題と認識し、対象者への特定保健指導の継続実施、禁煙プログラムの提供等の施策を継続実施している。 </p> <p>【健康スコアリングレポートの活用状況】 健康スコアリングレポートについては、主要事業主の経営層への説明、組合会での各議員への説明に使用するなどして活用を図っている。</p>
中央区 福祉保健部 服部委員	<p>【年齢構成】 40～64歳が41.5%と他と比べると比較的若い。</p> <p>【受診率や医療費の状況等から主に取り組んでいる保健事業】 <ul style="list-style-type: none"> ● 糖尿病性腎症重症化予防事業 ● ジェネリック医薬品差額通知事業 </p> <p>【健康スコアリングレポートの活用状況】 データヘルス計画の評価で傷病名毎の医療費分析や医療費推移を評価に利用している。</p>

ご所属・氏名	内容
<p>多摩市 健康福祉部 保険年金課 高橋委員</p>	<p>【年齢構成・性別】 ●市全体の人口としては、令和元年度1月1日現在の高齢化率（65歳以上人数の全人口に占める割合）が28.5%であり、都の値を大幅に超えている。今後ますます高齢化率は進み、国の高齢化率をまもなく超える見込みである。 ●人口における国保被保険者の割合は22.6%である。被保険者の構成は39歳以下24.2%、40～64歳30.6%、65歳以上45.2%であり、65歳以上の割合は都の33.0%と比較して明らかに多い。（KDB：令和元年度地域の全体像の把握） ●平成30年65歳健康寿命（東京保健所長会方式）の要介護2以上でみた場合、男性84.08（都82.82）歳、女性86.60（都85.92）歳と、都内でそれぞれ1位と6位であり、健康な高齢者が多い。</p> <p>【地域の特徴】 ●人口15万人弱（令和3年1月1日現在148,479人）、新宿から電車で30分程度に位置し、サンリオピューロランドがある。 ●いわゆる多摩ニュータウン地域で、一定期間に多数の人口流入があったため、人口構成がいびつで、急速な高齢化を迎えている。</p> <p>【特定健康診査・特定保健指導】 ●特定健康診査の受診率は、平成30年度までの5年程度は47～49%で微増・微減していたが、令和元年度は54.2%と大幅増となった。いちばん大きな要因は、新たに委託をはじめた受診勧奨が効果的だったと考えている。 ●男女とも、前年度と比較して、女性の55～59歳を除いて、各年齢層で増加していたが、特に40歳～49歳では、男性6ポイント以上、女性7ポイント以上が増加していた。この年代はももとの受診率の低さもあって、ポイントの増加が大きかったところもあるが、将来的な健康保持のためにも重要な世代であり、増加傾向を継続できる方法を考えていく必要がある。 ●特定保健指導終了者割合は、法定報告値では12.4%であった（健康スコアリングレポートと数字が違う）。令和元年度は前年度よりは改善したが、より割合を向上させることが必要であり、令和3年度から新たな取り組み（健診実施医療機関での特定保健指導実施）を開始する予定である。</p> <p>【生活習慣病リスクや医療費に関して】 ●生活習慣病リスク保有者の割合は、各項目とも、ほぼ都と同様である（若干脂質が高い程度）。 ●健診有所見者割合（KDB：様式5-2）で見ると、摂取エネルギーに関しては、都と比較して少ない。空腹時血糖及び随時血糖は、都及び国と比較して高いが、HbA1cは逆に低い。 ●医療費分析でも、外来で多いのは糖尿病8.0%、腎不全7.0%など、糖尿病関連疾患となっている。 ●これまでも糖尿病重症化予防事業に力を入れてきたが、今後も事業に積極的に取り組むとともに、実際の健診の実施状況の確認等も行っていく必要があると考える。 ●健診有所見者割合（KDB：様式5-2）では、LDLコレステロールの割合も都と比較して高い。医療費分析でも外来の脂質異常症が4.3%である。摂取エネルギーの過剰及び高血圧の割合は都と比較して少ないため、事業実施を考えていく上では、より詳細な分析が必要ではあるが、まずは糖尿病重症化予防事業を今後も積極的に進めていく。 ●当市の特徴として、医療費分析では、入院の精神・神経の割合（計22%）が大きい。これは市内に入院施設をもつ精神・神経の専門病院が複数あることが影響していると考えられる。</p> <p>【健康スコアリングレポートの活用状況】 具体的には、まだあまり活用できていない。（今回の回答作成にあたっては、健康スコアリングレポート以外に、KDB帳票も利用）</p>

ご所属・氏名	内容
東京食品販売 国民健康保険組合 佐藤委員	<p>●年齢構成等は、別添の資料（【参考③】【参考④】）に記載している。 ※1</p> <p>●組合加入者は、東京都内に事業所があり、食品関連事業（飲食店、旅館ホテル、食品等販売業等の中小事業所が占める。）に従事する者（事業主及び従業員とその家族）。 新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言を受けて、事業縮小、廃業による資格喪失者が増加している。</p> <p>●既存事業の改善、普及を中心に取り組む。 今後、優先して取り組むべき（改善）事業は、特定健診（H30年度 44.6% ⇒ R01年度 44.1%）及び特定保健指導（H30年度 17.4% ⇒ R01年度 9.3%）の受診・実施率向上、糖尿病性腎症重症化予防の普及、重複服薬者指導の推進及びジェネリック医薬品使用促進、歯科健診の普及があげられる。</p> <p>●レポートの活用までは至っていない。健康教育等のポピュレーションアプローチの中での活用を検討。</p> <p>※1…年齢構成等は、自庁システムから情報を抽出</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【参考①】健康スコアリング（医療）</p> <p>【参考②】健康スコアリング（健診）</p> <p>【参考③】年齢階層別加入者状況（5歳刻み）</p> <p>【参考④】年齢階層別加入者状況（1歳刻み）</p> <p>【参考⑤】令和元年度 特定健康診査男女別年齢階層別対象者数と受診者数</p> </div>

ご所属・氏名	内容
東京都職員 共済組合 事業部 伊藤委員	<p>共済組合では、健康スコアリングレポートの作成が令和2年度から開始されたため、令和3年3月に総務省から受領する予定です。</p> <p>このため、今回はデータ分析部会へ提出できませんが、他保険者の活用方法をお聞きし、参考にしたいと思います。</p>
東京都後期高齢者 医療広域連合 保険部 管理課 町元委員	<p>【年齢構成】 75歳以上の方。65歳以上75歳未満で、一定の障害があると都広域連合に認定された方</p> <p>【性別】 男女</p> <p>【事業、業務（公営国保の場合は地域の特徴）】 東京都（62区市町村）</p> <p>【受診率や医療費の状況等から主に取り組んでいる保健事業（又は今後取り組みたい事業）等】 医療費分析において、大分類別医療費で循環器、筋骨格の割合が高いことから、令和3年度は医療機関受診勧奨の対象者（生活習慣病の健診結果異常値放置者及び治療中断者）に、骨粗鬆症治療中断者を追加して実施する。</p> <p>【健康スコアリングレポートの活用状況】 データヘルス計画における評価指標に使用</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>【参考①】健康スコアリング（医療）</p> <p>【参考②】健康スコアリング（健診）</p> </div>